

サクラ咲く日まで

適 性 検 査

前号の進路通信で、「推薦入学者選抜において、推薦枠が学校（高校）ごとに設定され、中学校長推薦から自己推薦に変わる。」ことを紹介しましたが、ご理解いただけたでしょうか。

「自己推薦」に変わることから、試験の実施方法等の詳細は今後、明らかになっていくことと思われませんが、これまで市立札幌旭丘高校の推薦入試では「適性検査」というものが実施されておりました。「適性検査とはどんな検査だろう。」と興味をいだいたり、不安に思う生徒もいることでしょう。過去に出題された「適性検査」の問題は公開されております。（ただし、解答は公開されておられません。）古い検査問題ですが、裏面に平成24年度に実施されたものを載せておきます。頭の体操にもなると思いますので、チャレンジしてみたいはいかがでしょうか。

なお、私も問題を解いてみましたが、解答を進路通信に載せることはひかえさせていただきます。「4色定理（問題）」とよばれる有名な問題となっております。

4色定理（問題）… どのような地図やデザイン図でも4色あれば、隣り合う国、都道府県、地域、部分等を異なる色で塗りつぶすことができる。ただし、「アメリカ本土とアラスカ州等の飛び地は同色にする必要はない。」という条件が付きまします。昔は証明されていなかったのが「4色問題」とされていましたが、現在は数学的に証明されたため「4色定理」とよばれております。ただし、コンピュータを使用して証明したため「美しくない証明」と批判する数学者も多々おります。

@coffee break 黙 字

k n o w（知っている）、k n i f e（ナイフ）、k n i t（～を編む）、k n o c k（～をたたく）、k n o b（取っ手）…、「k n」ではじまる英単語です。これらは、「クノウ」ではなく「ノウ」、「クナイフ」ではなく「ナイフ」…と発音します。最初の発音記号は全て[n]となります。

このk n～のkのように、書いているのに読まない文字のことを『**黙字**』とよぶそうです。

ちなみに、かつてはk n o wは「クノウ」、k n i f eは「クナイフ」と発音したそうです。しかし、実際そのように発音してみると、とても言いにくいものです。そのようなこともあり、[k-]の音は次第に消えていったといえます。

h o n e s t（正直な）、h o n o r（名誉）、h o u r（時間）…、これらは、「h」ではじまるフランス語に由来する英単語です。これも「h」が黙字となっております。

考えてみれば、フランスの株式合資会社であるエルメス・アンテルナショナル社 が展開するファッションブランド『HERMES（エルメス）』、どうして「ヘルメス」と発音しないかわかりますね。

平成24年度札幌市立高等学校推薦入学者選抜の大問1です。

問題 先生と生徒の会話文を読んで、問いに答えなさい。



先生「今日は左の地図を使った学習に取り組めますが、まず、この図を見やすくするために、10区を、赤・青・緑・黄の4色を用いて、隣り合う二つの区が同じ色にならないように塗り分けます。」

Aさん「ということは、例えば、隣り合う北区と東区は同じ色で塗ってはいけないということですね。」

先生「そうです。ちなみに、北区と白石区のような隣り合わない区は、同じ色を塗っても構いません。」

Bさん「うん、なるほど。よし、Aさんやってみよう。」

Aさん「じゃあ、まず私が住んでいる南区は青を塗ります。」

Bさん「じゃあ、私のいところが住んでいる中央区を赤で塗るね。」

Aさん「まずは全色使いたいのので、次に豊平区を黄、清田区を緑で塗ろう。」

Bさん「そうすると白石区は（ア）を塗ることになるね。」

Aさん「そうだね。次に、厚別区と東区は同じ色を塗っても構わないから、両方とも同じ色の（イ）を塗ろう。」

Bさん「そうすると、北区は青か（ウ）を塗ることができるから、（ウ）を塗るね。」

Aさん「北区を（ウ）で塗るとなると、西区は（エ）で、手稲区は（オ）で塗ることになるわ。」

Bさん「そうか。じゃあ、西区と手稲区を塗ってと…。よし、これで完成だ。」

先生「では、次に、同じもう一つの地図を、赤・青・黄の3色のみで、隣り合う二つの区が同じ色にならないように塗り分けてください。」

Bさん「おっ、使える色が1色減ったね。今回は東の方から塗ってみよう。」

Aさん「では、厚別区を黄、清田区を赤、白石区を青で始めてみよう。」

Bさん「次に、東区は赤を塗るね。」

Aさん「清田区が赤で、白石区が青なので、豊平区は黄ね。あつ、これだとうまくいかない。」

Bさん「本当だ。東区を赤で塗ったのが失敗だったんだね。それでは、東区を（カ）で塗ろう。」

Aさん「さすがBさん。これならうまくいきそうだね。」

問1 会話文中（ア）～（カ）に入る最も適切な色を書きなさい。

問2 下線部について、Aさんがこのように発言した理由を50字以内で書きなさい。